

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の入所までの地域とのつながりを出来るだけ把握し、交流を絶えないよう務めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、フロアなど目に付くところに理念を掲げ、日々の介護や会議のときなど、これを原点としている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	外出デーやお散歩などの地域との交流が取りやすい機会を増やし、家族にも封書を送付し参加できるよう連絡している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	基本毎日散歩に出て、畑をされている近所の方と会話している。	○
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の文化祭、お祭り、敬老会に参加している。また、落語やマジックショーなどの地域ボランティアを積極的に取り入れている。	
			畑を貸していただけるようなので、利用者の精神、身体状況を見極め、将来的には参加していきたい。

岐阜県. グループホームうれし家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>介護サービスの種類が分からない家族が多いので、将来的には地域包括センターと連携を強め、町のサービスネットを作り、どの事業所へ行ってもその方に合うサービスが提案できる窓口になりたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>自己評価をすることで出来ていない部分が見えるので、評価を生かし、非常識が常識にならないよう務めていきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>より多くの地域住民に参加してもらうため、交流をさらに深めたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>人数的に厳しくまだ出来ていないが、順序全職員に研修を受けるようにしていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>ニュースや管理者が学んだ研修をもとに、具体的に例をあげて意識を持たせるよう務めている。また、職員の介護に対する不安や疑問も出せるよう雰囲気作りも大切にしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を管理者が声に出して説明し、了承を得てから契約を結ぶようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が一对一で利用者と居室で話す機会をもち、やりたい事、不安や苦情を聞けるようにしている。その結果を家族に定期的連絡するようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一ヶ月単位の近況報告シートを作り、毎日一行ずつではあるが、その日の暮らしぶりや健康状態を記入し、家族へ送付している。また、健康状態が急変した場合は、すぐに連絡している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者へ報告して頂くようお願いすると同時に、苦情受付BOXを玄関に設置している。	○
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や毎朝の申し送りの時間に意見や提案を聞くようにしている。また、管理者が個人と話す機会も設けるよう務めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要時は職員を増やして対応できるよう努力している。	

岐阜県. グループホームうれし家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今のところ、なじみの職員の離職はあまりなく、利用者も落ち着いている。</p>	○	<p>まず、現職員がそのまま定着するような職場作りに務め、職員には自分が離職することで利用者がどんな気持ちになるか、という意識も持って仕事をしよう伝えていきたい。</p>
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19 ○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格やスキルアップにつながる事は会社をあげてサポートし、他グループホームの見学なども取り入れている。</p>	○	<p>これから介護にも医療的な知識が必要になるので、看護師を先頭に医療面の研修も実施していきたい。</p>
<p>20 ○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他グループホームと交流を持ち、運営推進会議も合同で行うことで、地域におけるグループホームの役割を果たす努力をしている。</p>	○	<p>町内だけでなく、さらに広い範囲のグループホームとの交流をもてるよう努力していきたい。</p>
<p>21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者と職員が一對一で話ができる機会を設けている。</p>		
<p>22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の意見、提案はまず試すよう伝えている。そうすることで職員個人が責任を持ち、成果を実感できるようにしている。また、出来るだけ希望のシフトにすることで、そのバイタリティを維持できるようにサポートしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が意見を言いやすい自宅などを訪問し、出来るだけ細かく聞き取りをするようにしている。入居後も一対一で話す機会を設けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでに出来るだけ、話を聴く機会をつくり、信頼関係を築くよう努力している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた上で、必要なサービスが提案できる場合は提案し、見極められない場合は地域包括センターと連絡をとるようにしている。	○ 知識を増やし、グループホームだけでなく、様々な介護サービスを提案できるような窓口になっていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	昼食のみ、入浴のみ、外出のみなどの短時間から泊まりまで、本人や家族が納得する形での柔軟な体験入居を実施している。	○ なじみでない他利用者とも交流を深めてもらえるようなレクリエーションを探していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念でもある「人と人との温かいふれあいの心を大切に・・・」をモットーにしている。また共に生活することで親近感も増してくるし、利用者の過去の体験などの細かい情報を基に接することで、信頼関係を築いている。	○ 継続してやっていきたい。

岐阜県. グループホームうれし家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	グループホームの意義を理解していただいたうえで、定期的に連絡をとり、家族とも家族になれるよう心がけている。	○	継続してやっていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	住む場所が変わっても、これまでの家族関係は変わらないよう、訪問しやすいホーム作りを心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に本人の希望を伝えた上で、墓参りや、自宅の様子を見に帰ったり、馴染みの人を訪問している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	袖振り合うも他生の縁。必ず利用者同士の共通点があるので、回想法などを用いて、利用者だけでなく職員とも親近感がもてるよう努力している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	定期的にどんな様子か連絡を入れている。また、他施設へ移られた場合は、家族の了解を得て本人を訪問している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活してきた環境が違うので、希望、意向はあって当然と受け止めている。出来るだけ希望に添えるよう、本人、家族、職員で検討している。	○	継続して実践の介護に活かしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に出来る限り細かい情報をいただくが、入所後も訪問していただいた近所の方や友人などからも情報をいただいてマップを作るよう心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	月一度の会議で個別に問題提起をし、モニタリングするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアマネをはじめ、本人、家族、職員で個別の介護計画を立てている。	○	出来る限り本人の希望に添えるよう努力しているが、入居者の中で差が出つつあるのが現在の課題である。差がでないようにはどうすればいいか、検討している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の日々状態が少しずつ変化しているので、介護計画にも常に変化が求められると思っている。対応できない変化が生じた場合には、関係者を含め意見を出し合うようにしている。	○	本人が納得しないことを、いかに行っていたか、個人に合ったケアをしていきたい。

岐阜県. グループホームうれし家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成し、職員がいつでも見れるようにファイリングしている。	○	現状を継続していきながら、常に善処する気持ちで臨みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊が困難な利用者が家族と過ごすことを望まれた場合は、家族と相談し泊まっていたりすることはある。	○	町民運動会などの大きな催しにどんどん参加させていただく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町の文化祭を見に行ったり、ボランティアに慰問してもらったりしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人だけでなく、家族からの相談を受けた上で、提案できるサービスはその事業所と連絡を取る。その他は地域包括センターに相談したりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護が必要な入居者がいるが、地域の民生委員が担当されており、その方と定期的に連絡をとっている。		

岐阜県. グループホームうれし家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の内科往診、歯科往診を含め、その他状況に応じていつでも総合病院を受診できるようにしている。	○	内科往診だけでは分かりづらい病気もあるので、定期的に総合病院で健康診断を受けていきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門の精神科医と情報を共有し、診療を受けている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームはケアマネが看護師も兼任しているので、いつでも情報を共有し、健康管理もできる。	○	現状維持しながら、さらに連携を強めたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際は、家族と3日に一度連絡を取ることとし、近況報告していただくようにしている。また、こまめに病院へ赴きドクターや看護師から今後の経過について話し合っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事故、病気などでの急な重度化もふまえ、入居時に本人、家族の意向を受け入れるよう努力している。またケース会議などで入居者の体調管理をし、家族に報告している。	○	医療行為が必要でない場合に限り、ターミナルケアを行うことにしている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化やターミナルケアにあたって、グループホームとして出来ることと出来ないことの区別が職員の間で意見が分かれており、困惑することもある。かかりつけ医や看護師と相談し、会議の議題にしている。	○	本人、家族の要望とホームとして出来ることに温度差を感じることもあるが、出来るだけ希望に添えるよう、されに意見交換していきたい。

岐阜県 グループホームうれし家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームへの入居の際は、体験入居を7日間設けており、入浴だけ、昼食だけなどの短時間での体験も柔軟に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の触れられたくない過去などに、気づかず触れることのないように出来るだけ細かい情報を共有するようにしている。また、失禁などにも目立たず声かけをし、居室へ案内するようにしている。	○	入居後も利用者の希望や意向を引き出し、職員で共有できるように気をつけていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が希望や意向を言ってもいいんだ と思ってもらえるような信頼関係作りに務めており、実際希望や意向を言われることが多い。そしてその実現に向けて職員で相談し、実行するようにしている。	○	今まで通っていた喫茶店に行きたい、と言われた場合は職員同士サポートし、一人外出付き添いしている、出来る限り続けていきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に生命に関する決まり（例えば往診、食事、排泄など）以外は特にルールは作っておらず、入居者のペースで一日が流れている。	○	外出などの希望が出れば、職員体制にもよるが、出来る限り希望に沿えるようにしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容に関しては、今まで通ったところがあれば、そこを利用できるように家族と協力している。		

岐阜県. グループホームうれし家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>メニューはバランスの摂れたものを1週間ごとで決まっているが、苦手なものがある場合は、他メニューにかえたりしている。</p>	○	<p>誕生日やイベント時は入居者の食べたいものをお聞きし、出しており、月に一度外食デーを設け、地域のレストランを利用しているが、もっと機会を増やし、外食の楽しみを味わっていただきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>ショッピングの日を設け、一緒にスーパーへ行き好きなおやつを買うようにしている。またタバコは家族と相談した上で職員管理、見守りのもと喫煙していただいている。</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p> <p>夜間もテープ止はやめ、Pトイレの使用などで対応するようにしている。</p>	○	<p>テープ止めからリハパンへ回復された方もおられるので、継続していきたい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p> <p>一応週3回ということになっているが、入浴日、入浴時間以外でも、職員配置状況に応じてではあるが、いつでも入浴できるようにしている。</p>	○	<p>どうしても、夜勤帯や職員体制上、いつでも入浴していただけない状態にあるので、いつでも入浴できる状態にするにはどうしたらよいか、相談していきたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p> <p>本人が気持ちよく眠れるよう、家族や本人と居室作りをしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p> <p>本人の情報をもとに、活躍できるシーン作りを心がけている。</p>	○	<p>現在、台所や洗濯物をめぐって女性同士で仕事の取り合いや、何で私ばかりやらないといけないのという課題がでており、入居者同士が支えあって生活できるよう、検討していきたい。</p>

岐阜県 グループホームうれし家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は財布を持っていただいている。また、出来ないが本人がどうしても持ちたいと希望される場合は、家族と相談し対応している。	○	自分での金銭管理を強く要望されるが、実際はできない方がおり、お互い納得のいく方法がないか、家族と相談していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	基本晴れた日は外出（散歩、喫茶店）している。	○	職員とも外出し、景色を見たりしながら会話することで信頼関係が深まっているので、入居者の体調にもよるが、出来る限り続けていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域密着という意味を受け止め、行きたいところへ職員と行けるようにしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を利用できるようにしており、実際に使われている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問していただいている。食事を一緒に摂られることもある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の生命に関らない限りは、身体拘束は行っていない。		

岐阜県. グループホームうれし家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>施錠は基本内側から開けられるものとしており、出来る限り現状維持していきたい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	<p>衣類をハサミで切られる方は、ハサミを預かっているが、希望されたときは職員見守りのうえでお返ししている。現在はそれで落ち着かれているので、継続していきたい。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>運営推進会議などで、具体的な取り決めを行っているが、細かい部分には至っていないので、文書化していきたい。</p>

岐阜県. グループホームうれし家

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	内科往診などの結果を、定期的に家族に報告し、必要であれば外部医療機関を受診している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師が毎日バイタルチェックを行い、変化に応じて往診医と連絡をとっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理表をつくり、職員全員がいつでも把握できるようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	かかりつけ医と相談し、朝、寝る前の水分補給、毎朝の散歩を実施している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科往診の指示のもと、毎食後口腔ケアをしていただいている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れた食事を提供しているが、栄養が食事から摂取できない方は、医師の指示のもと栄養補助剤にて確保できるよう支援している。	○	定期的な血液検査をし、栄養状態をチェックしており、その上で医師と相談し今後の対応を決めているので、継続していきたい。

岐阜県. グループホームうれし家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	医療機関と連携し、予防摂取は受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎晩食洗器にて洗浄し、ハイター洗浄も実施している。食材に関しては業者から前日に届くので賞味期限などの心配はしていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に熊の形をした木を植えてあり、近所の子どもに楽しんでもらえている。また花をたくさん植え、「福祉施設」らしさをなくすよう心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔であるよう心がけている。汚染したときはすぐに清掃するようにしている。	○	トイレの電気をもう少し明るくしたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた共用空間の中でのそのような空間確保は難しい。		

岐阜県. グループホームうれし家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたベッドやタンスを、出来るだけ配置も変えずにいけるようにしている。	○	それぞれ部屋の形が違い困難な場合があるので、本人、家族と相談し設置しており、継続して取り組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外部との温度差を無くしたいが、本人が空調管理をされる場合は難しいことが多い。冬は感想するので、濡れたタオルをかけたりしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力に応じて、必要であれば手すりの設置もしている。	○	継続してやっていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分で出来ることは見守り、声かけの上してもらうようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	それぞれ鉢に花を植えており、毎日水をやったり、犬の散歩をしたりしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

岐阜県 グループホームうれし家

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは職員を含めて「自分や自分の家族を利用させたい」という気持ちを大切に、日々業務にあたっています。家ではおおむね一人で介護されていて、なかなか外出をさせてあげられなかった、という家族様の気持ちを汲み、天気の良い日にはほとんど外出しています。また、家族様も参加可能な外食デーも設けています。身体的な介護はもちろん必要ですが、グループホームは精神的な介護に重きを置いておりますので、家族様ができないことをグループホームで率先してやっていきたいと思っております。外出することはリスクを伴いますが、生き活きと生きることが「生活する」ということですので、そのあたりのご理解を家族様にもいただけていると思っております。